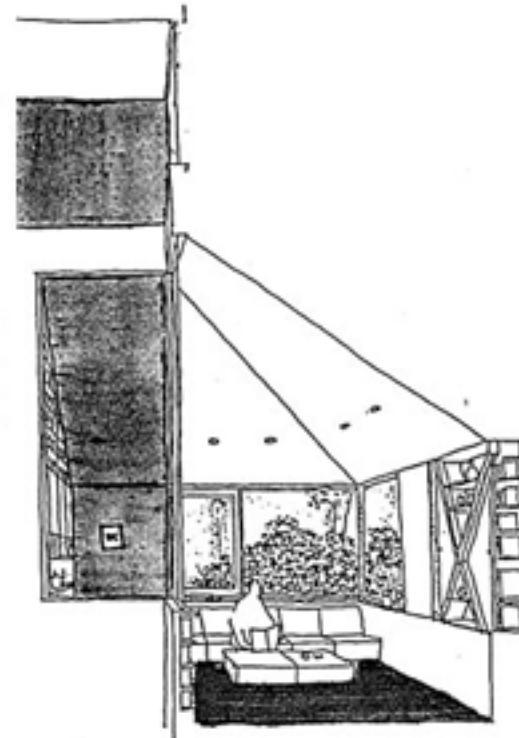


部屋と部屋のつながりを考えるためのポイント(2)

図・文/本多和夫

居間と食堂のつながり

今回は前号に引き続き、部屋のつながりを、居間と食堂、居間と寝室の例を見ながら考えていきます。前号にも述べましたが、部屋と部屋、部屋と廊下やサード部分のつながりは、住宅の設計では住み良しの大切な要素になりますので、各部屋の用途、目的、人数、時間を自分の生活スタイルに合わせて十分に検討してください。合理的で機能的な上に、なお快適で豊かな空間創りを目指しましょう。

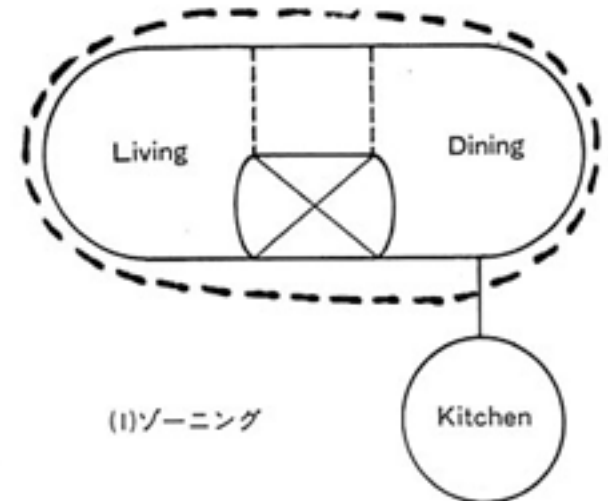


(1)広い居間・食堂を確保するために、吹抜け利用のワンルームスペースを設ける。勾配天井やトップライトなど用いて、オープンで明るい空間となっている。

(1)直列配置(17畳)

都市住宅の中では、より快適な日照・通風・プライバシーを得るための方法として、居間・食堂を二階に配置することがあります。このプランでも狭小な敷地の中でそれらを得るために一階と二階を逆転させてあります。

4.5間×4間の狭い建築面積の中で、できるだけ広い居間・食堂を確保するために、二階全体を南北に2分し、直列なワンルームスペースとして続けました。これだけではただの箱のような住居になってしまいますので、家の中央に吹抜けを設けて一階の廊下に光が届くようになっています。この吹抜けを中心に天井も屋根裏まで利用して勾配天井とし、気積の多い空間となりました。また吹抜けはトップライトにもなっており、光と風と空気の流れを呼び込み、一階の子供室や老人室の気配までを居間・食堂に感じられるつながりになっています。



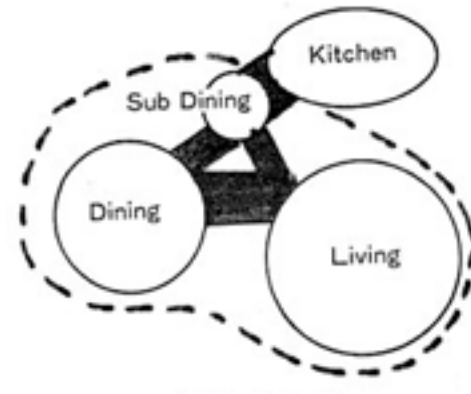
(1)ゾーニング

(1)平面図 居間と食堂が直列なワンルームスペースとして設けられている。

(2)暖炉を中心に据える居間・食堂(28畳)

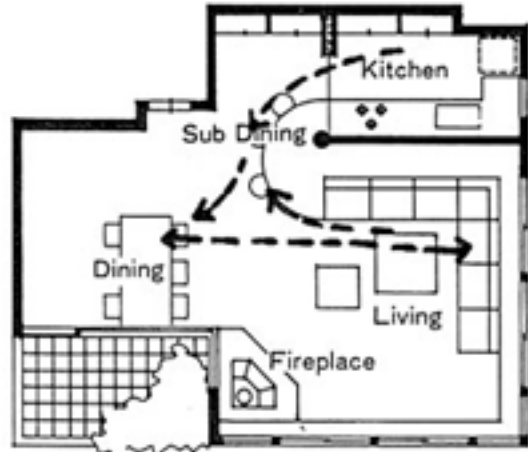
団樂の中心に暖炉を造り付けた例です。東南に面する居間・食堂で28畳分の広さがあるゆとりの間取りになっています。

中央にある暖炉の左右に居間と食堂を配置してあります。この位置に暖炉を設けたのは、ソファに座った時やテーブルに着いたときこの場所が視線の集まる所となるからです。暖炉は、その暖かい炎で心身ともにやすらぎを与え、同時にインテリアとしても楽しめるものでこの居間・食堂をつなぐ装置にもなっています。台所は居間と平行した抽壁によって視線を区切られており、また引込戸を閉めて独立させることもできます。この台所のセットの延長として半円形のカウンターが居間のゾーンに組み込ませてあります。このカウンターをワンクッションとして台所との動線は居間側へと自然につながっていきます。また、このカウンターは、朝・昼の軽食や居間でのファミリーパーティーなどに配膳コーナーとして



(2)ゾーニング

でも利用できるものになっています。さらにフォーマルグイニングとしての食卓が動線の延長上にあります。この部分は庭を取り込むようにガラスのコーナー窓になっていて食卓に緑の潤いを与えています。間取り上、このコーナーは、直線でつなげることで得られぬ豊さと変化を創りだしています。そして居間側の東南コーナーには空気のたまり場をつくり落着いた雰囲気を与えています。



(2)平面図 暖炉を中心に左右に居間と食堂を配置した例

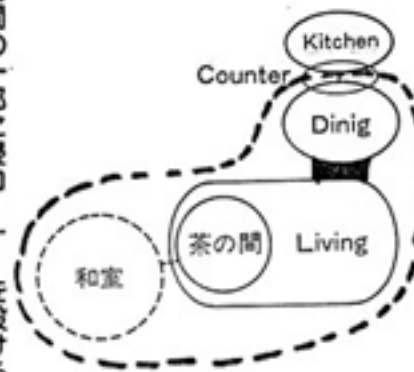


(3)平面図 居間の一部に畳コーナーを設け、茶の間として利用する

(3)居間の一部に畳コーナーを設ける(14畳)

椅子式の食卓には慣れていない人でも、リビングセットによる居間では寛ぐことができず、なんとなく落ち着かず、畳の上でゴロゴロしたいという希望の人も多くみられます。そんな人達のためのプランとして、居間の一部に畳コーナーを設けたり、茶の間として和室を接続したりします。たまには、畳の上での食事や、コタツに入ってお酒を飲むこともできます。

この例では14畳分の南に面した台所、居間と一部に畳コーナー1.5畳を設けてあります。その隣に和室8畳をL字型に接続させてあり、換で仕切られています。畳コーナー部分の床は、食堂・居間の床材フローリング張りより20mm上げて造られていて、腰掛られるようになっており、リビングに向ってのベンチの役目も持つようになっています。また目線の高さも椅子やリビングセットに近づけて、異和感のないつながりになるように考えてあります。また、この畳コーナーは、襖を仕舞いこむと和室8畳との続き間にもなり、居間・食堂・和室と合わせると22畳分の広さを得ることができるようになっており、多目的な使用が可能になります。



(3)ゾーニング

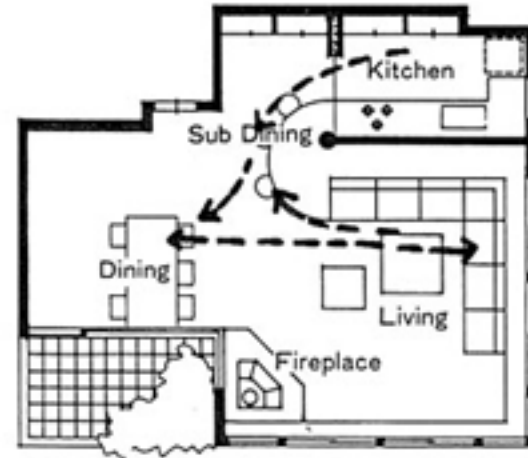


(1)平面図 居間と食堂が直列なワンルームスペースとして設けられている。

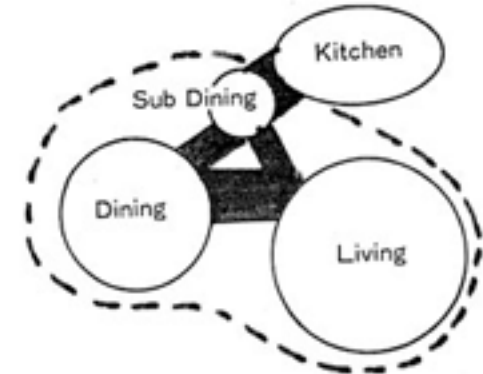
(2)暖炉を中心に据える居間・食堂(28畳)

団樂の中心に暖炉を造り付けた例です。東南に面する居間・食堂で28畳分の広さがあるゆとりの間取りになっています。

中央にある暖炉の左右に居間と食堂を配置してあります。この位置に暖炉を設けたのは、ソファに座った時やテーブルに着いたときこの場所が視線の集まる所となるからです。暖炉は、その暖かい炎で心身ともにやすらぎを与え、ともにインテリアとしても楽しめるものでこの居間・食堂をつなぐ装置にもなっています。台所は居間と平行した抽壁によって視線を区切られており、また引込戸を閉めて独立させることもできます。この台所のセットの延長として半円形のカウンターが居間のゾーンに組み込ませてあります。このカウンターをワークションとして台所との動線は居間側へと自然につながっていきます。また、このカウンターは、朝・昼の軽食や居間でのファミリーパーティーなどに配膳コーナーとして



(2)平面図 暖炉を中心に左右に居間と食堂を配置した例

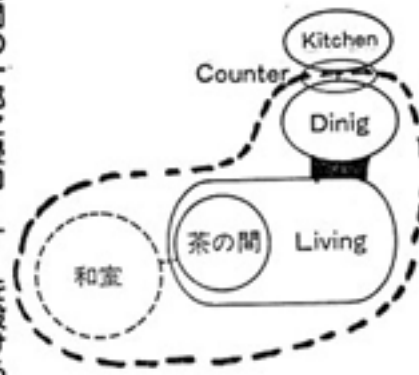


(2)ゾーニング

でも利用できるものになっています。さらにフォーマルダイニングとしての食堂が動線の延長上にあります。この部分は庭を取り込むようにガラスのコーナー窓になっていて食卓に緑の潤いを与えています。間取り上、このコーナーは、直線をつなげることで得られぬ豊さと変化を創りだしています。そして居間側の東南コーナーには空気のためり場をつくり落着いた雰囲気を与えています。



(3)平面図 居間の一部に畳コーナーを設け、茶の間として利用する



(3)ゾーニング

(3)居間の一部に畳コーナーを設ける(14畳)
椅子式の食卓には慣れている人でも、リビングセットによる居間では寛ぐことができず、なんとなく落着かず、畳の上でゴロゴロしたいという希望の人も多くみられます。そんな人達のためのプランとして、居間の一部に畳コーナーを設けたり、茶の間として和室を接続したりします。たまには、畳の上での食事や、コタツに入ってお酒を飲むこともできます。この例では14畳分の南に面した台所、居間とそ一部に畳コーナー4.5畳を設けてあります。その隣に和室8畳をし字型に接続させてあり、襖で仕切られています。畳コーナー部分の床は、食堂・居間の床材フローリング張りより20mm上げて造られていて、腰掛られるようになっており、リビングに向ってのベンチの役目も持つようになっています。また目線の高さも椅子やリビングセットに近づけて、異和感のないつながりになるように考えてあります。また、この畳コーナーは、襖を仕舞いこむと和室8畳との続き間にもなり、居間・食堂・和室と合わせると22畳分の広さを得ることができるようになっており、多目的な使用が可能になります。